

「神の時とあなたの時」

～一時も無駄にはできない～

伝道者 3 : 1 ~ 15

「生きる目的を知ってしますか」

私たちは生きていれば、必ず死を迎えるときがきます。それは誰もが逃れることができません。そして自分はいつまで生きていられるのか、それを知っている人はいません。それは明日かもしれないし、何十年先かもしれない。では私たちは長く生きることができればその分幸せであると言えるでしょうか。私たちは日々の生活の中でどのように過ごしているのか、その積み重ねが大事であり、一時も無駄にはできないのです。ではどのように過ごせば無駄ではなくなるのでしょうか。それは私たちが毎日の生活の中で「何のために」生きていられるのか、「何のために」それをしていられるのかをしっかりと考えていかなくてはならないのです。ですから、私たちが「感情的に生きて」しまうことや、「その日暮らし」のように思いつくままに生きてしまうと運転手のいない車のようであり、暴走していることと変わらないのではないのでしょうか。そのように生きていたことが理解できているのであれば、振り返ってみましょう。そうするとその時は周りの人々を蹴散らし、傷つけたり…悪い実が残っているかもしれません。しかし今の私たちは自らを振り返り、制御しようと思ったり、今までの行動を悔い改めて新しく生きていくことができるのであれば、良い実が残る人生になることができます。ですから私たちは今をしっかりと生きていかなくてはならないのです。(ヘブル 3:15)「きょう、もし御声を聞かざらば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」と言われているからです。私たちもこのように無駄に生きてしまう日々を終わらなければならないのです。

「神の計画を壊すのは…」

私たちに神様が用意した計画があります。その計画は将来と希望を与える素晴らしいものです。ですが、その計画を壊したいと思っている存在がいます。それは悪魔です。ではどのように壊しにくるのでしょうか。悪魔が破壊の限りを尽くして計画を滅茶苦茶にするのでしょうか。そうではありません。アダムとエバの時から悪魔は誘惑し、間違った行動を取るようにしむけていくだけです。その時、悪い行動を取ってしまうのか、それとも正しい行動を取れるのかということなのです。ですから、食べてはならない実を食べさせるために誘惑しているシーンもエバは神の約束を思い出し、食べてはならないと決断することができていれば、また神様と話しをする時にも、アダムはエバへ責任転嫁して自分は悪くないと言ってしまいました。このように悪い時に悪い決断、悪い行動に出してしまうのを避けるようにと聖書は教えているのです。ですから神の計画を壊すのは「私たち」なのです。周りにいる人の責任ではありません。自分で決断して良い方向へ歩んでいくのか、悪い方向へ歩んでいくのか。私たちに任せられているのです。語られるメッセージを心に留めて、まさかの時に思い出していくことが大切なのです。また、まさかの時や正念場とよばれている時にこそ、正しい行動を取ることができるようになるためなのです。それができるように私たちに助け主である聖霊さまが私たちを導いてくださるのです。

「神の祝福が増えるには」

聖書には5千人の給食のたとえが出てきます。男だけで5千人ですから、女性や子どもたちもいたので、約1万5千人～2万人程度の人がイエス様の話しを聞いていました。そして暗くなってきましたので、弟子たちは早く群集を解散しないと大変なことになると思っていました。イエス様はそのような中で、弟子たちに食べ物を用意できるのか尋ねます。そして子どもが持っていた5つのパンと2匹の魚をイエス様の元に差し出しました。そして祈りをささげ、弟子たちに分け与えさせていきました。そうしたらなんとすべての人が満足し、あまりが12のかごに集まる位になりました。5つのパンが5千人に満腹させるにはどのようにしたらよいのでしょうか。聖書には答えは書いてありません。しかし、自分たちの持っているものを隣の人に分けた時、そのパンは増えていったのではないかと思います。神の祝福とはこのようなものだと考えられます。自分の持っているものを隣の人に分け、またその隣の人が受け取っていく時にその祝福が増えていくと思えます。ですから、私たちが自分の持っているものを分けないと大きくなることはありません。私たちがそのために一時も無駄にはできないのです。

①「神様の時は私たちには理解できない。しかし…」

このしかし…の後にくるものは「逃げない」という言葉です。クリスチャン人生とは今、立ち向かっている問題から「逃げない」ということです。逃げてしまったらそこで終わりになってしまいます。私たちは最後まで忍耐するものでなければいけません。(マタイ 24:13)「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。」と書いてあるからです。私たちはどんな境遇にあったとしても満ち足りることを信じています。そのためにいつも十字架を見上げていなければいけません。そこに唯一の救いがあるからです。だからこそ、「上を向いて歩こう」という歌が受け継がれていくのです。この曲こそ、クリスチャンであった坂本九が歌っていた希望の歌です。苦しい時は逃げたくなる気持ちが湧いてきます。しかしそれを乗り越えて前へと進んでいきましょう。

②「無駄にするな。侮辱・自分のため・脅しに注意」

10戒の第3戒にはこのように書いてあります。「(出エジ 20 : 7) あなたは、あなたの神、【主】の御名を、みだりに唱えてはならない。」私たちは日常生活の中で神様を恐れているでしょうか。パウロも神を恐れることを何度も伝えているのです。ポイントの中に侮辱、自分のため、脅しに注意とあります。私たちは隣人に向かって「あの人はこういう人」と決め付けたり、中傷することをよくしてしまいます。私たちは神によって造られていることは自認していると思います。では隣人は誰が作ったのでしょうか。もちろん、私たちと一緒に、神様です。このように神様が造られている隣人を見下したり、自分のために裁いたりすることは神の恵みを無駄に受けているようなものです。そして神様に対して罪を犯している行為になります。ですから自己中心的な行動が神の御名をみだりに唱えることに繋がっていくのです。クリスチャンをしていくと、段々自分ルールというものが築き上げられていくかもしれません。「〇〇してはならない」「〇〇するのが普通」という考え方をし、隣人をそのルールに当てはめようとしていきます。ではどのようにすれば良いのでしょうか。私たちは神様に祈ることができます。神様は私たちの祈りを待っています。その関係は愛の関係あり、一方的ではありません。神様を道具のようにしてしまうことに注意する必要があります。

③「あなたをイエス様のように！！」

私たちがイエス様のように“成長させて”いきましょう。福音書にはイエスがどのように歩まれたのか書かれています。旧約聖書にはイエスキリストがどのような姿で来るのか、預言書、雛形となる人物を通して理解できます。また使徒以降の書簡を読むと、イエスキリストの歩みが弟子たちにどのように写っていたのかが理解できます。私たちはこのイエス様の姿を聖書から見出し、その姿に近づいていく必要があります。私たちの歩みはイエスキリストがどのように歩まれたのか探る人生です。イエスキリストは“世の光”“地の塩”“いのちの水”“礎石”“導く星”“隠れた宝”“いのちの源”“いのちの門”“病人を癒す医者”“教師”“永遠の香り”“ぶどうの木”“知恵”“羊飼”“道”“真理”“信仰の父の姿”“忠実な子の姿”とさまざまな姿が写されています。すべてを行うことはできないけれども、この中からこの部分だけはやっていこうとする箇所を探り求めていきたいと思えます。そして私たちに表すことのできる部分が、この生涯を通して増やしていければよいと思えます。

「私たちはどのように歩みますか」

神の時とあなたの時～一時も無駄にはできない～とメッセージが語られました。神様は私たちが今週どのように歩いていくことを望んでいるのでしょうか。無駄に時を刻んでしまうことがないように生活の質を問われています。イエス様は私たちに誰の隣人になるように語られています。私たちの持っているものを隣人に分け合いながらお互いに祝福された道を歩んでいきましょう。

(要約者: 平澤 一浩)